

| | | | |
|-------|---------------|-----|------|
| 授業科目名 | 漢文学 (2100133) | | |
| 時間割名 | 漢文学 (35102) | | |
| 時間割担当 | 山田明広 | | |
| 実施期 | 後期 | 単位数 | 2 選択 |
| 曜日・時限 | 水・5 | | |

授業の目標・概要

「漢文学入門」を踏まえて、やや高度な漢文の語法を学び、返り点のついた漢文を独力で読み進めることができるようにし、漢文学に有効な工具類の使用法についての理解を定着させる。本講義では、歴史を叙述した作品を、主な教材に選び、時系列に従って意味を理解できるようにする。具体的には、宋代の歴史家司馬光の『資治通鑑』を教材とし、特に玄宗と楊貴妃にまつわる叙述を読み進める。最後に、「長恨歌」、「長恨歌伝」を併せて読み解き、中国伝統文化の総合的理解を目指す。

学習の到達目標

本講義は次の三つを目標とする。第一に、出来事を記した漢文を、辞書や工具類を使って、独力で読むことができる、第二に、時系列に従って、文を追いつながら、内容を把握することができる、第三に詩歌と関連の深い史実に触れ、中国における文学と歴史の関係について理解を深める。

授業方法・形式

テキストをもとに講義を行う。受講生は、第一回目に指示するノートの取り方に従って、教員の伝える漢文についての情報を書き留めなければならない。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 授業の到達目標、進め方、授業計画、評価の仕方を理解する。
漢文のノートの取り方、予習の仕方について学習する。
- 第2回 『資治通鑑』について 『資治通鑑』の書名の由来、利用された史料、編纂のプロセス、著者司馬光、『資治通鑑』の諸本、日本での受容、参考文献について、多角的に学ぶ。
- 第3回 『資治通鑑』「唐紀」31(1)楊貴妃、玄宗のもとへ 「初武恵妃薨」から「皆如皇后」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第4回 『資治通鑑』「唐紀」31(2)楊貴妃、玄宗の寵愛を得る 「楊貴妃方有寵」から「今看女作門?」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第5回 『資治通鑑』「唐紀」31(3)楊貴妃、?支を食べる 「妃欲得?支」から「後宮莫得進矣」までの内容を訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第6回 『資治通鑑』「唐紀」31(4)安祿山、腹の中に何がある? 「戎寅以范陽」から「有赤心耳、上悦」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第7回 確認チェックテスト 授業の前半は、第3回から第6回までに学んだ漢文について、その理解度を問うテストを実施。授業の後半は、安史の乱と玄宗・楊貴妃について理解を深める。
- 第8回 『資治通鑑』「唐紀」32安祿山の誕生日 「甲辰祿山生日」から「上亦不疑也」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第9回 『資治通鑑』「唐紀」34(1)逃避行 「上過便橋」から「上亦掩泣」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第10回 『資治通鑑』「唐紀」34(2)逃避行 「軍士圍驛」から「因叩頭流血」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。

成績評価の基準

(授業計画の続き)

- 第11回 『資治通鑑』「唐紀」34(3)楊貴妃の死 「上曰、貴妃常居深宮」から「諤見素之子也」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第12回 『資治通鑑』「唐紀」34(4)司馬光の論纂 「臣光曰」から「適足爲大盜之招也」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。
- 第13回 白居易「長恨歌」を読む 白居易「長恨歌」を、既存の訳注を使って読み解き、『資治通鑑』「唐紀」の玄宗・楊貴妃の記述と比較し、歴史叙述と文学作品(韻文)の表現の違いを学ぶ。
- 第14回 陳鴻「長恨歌伝」を読む 陳鴻「長恨歌伝」を、既存の訳注を使って読み解き、『資治通鑑』「唐紀」の玄宗・楊貴妃の記述と比較し、歴史叙述と文学作品(散文)の表現の違いを学ぶ。
- 第15回 復習 『資治通鑑』「唐紀」、「長恨歌」、「長恨歌伝」の描写や表現を比較し、考察を深める。学習内容を振り返り、質疑応答によって、理解をさらに深め、学期末テストの準備とする。

(成績評価の基準)

毎回の授業でワークシートを提出。授業の理解度を問う(30%)。学期途中に確認チェックテストを実施し、セメスター前半の理解度を問う(20%)。学期末テストで、セメスター後半の理解度と、総合的な漢文読解能力を問う(50%)。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には不可0点とする。

準備学習・復習及び授

予習:教材のうち白文をノートに書き込んでおく。書き下し文や日本語訳も事前に書き込んでおくのがのぞましい。復習:毎回の授業終了後、ノートを読み直す。声に出して読むのがのぞましい。

履修上のアドバイス及

「漢文学入門」を受講した後に受講するのがのぞましい。

教材・教科書

配布プリントを使用。

参考書

頼維勤、石川忠久ほか訳『資治通鑑選』（平凡社）、田中謙二訳『資治通鑑』（朝日新聞社）、下定雅弘『長恨歌 - 楊貴妃の魅力と魔力』（勉誠出版）